定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb 版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

外国人生徒への入試特別枠がもたらす効果

『特別枠がなかったら高校には行けなかった。』入試特別枠がある高校に進学した生徒にこの言葉を聞いた時、喜ばしい気持ちになった。兵庫県で外国人特別枠入試が 2016 年度に始まってから４回の入試が終わった。受け入れ校によって人数は異なるが、この間に多数の外国人児童が高校に進学できた。残念ながら入学後に中退した生徒もいるが、恐らくこの制度がなければ、高校の扉を開くことさえできなかっただろう。

特別枠の制度が知れ渡っていないこと、応募定員が上回った高校で翌年に控え現象が起こったことなどから、定員割れの状況も見られるが、この制度が導入されてから、外国人生徒の高校進学に希望の光が見えたといえる。ある高校で学習支援教室を見学した時、先生の指導の丁寧さに驚いた。学習予定の内容を簡単な日本語で説明した教材を作り、授業についていける工夫をしている。またある高校では、生徒の母語を話せる教員を配置して、いつでも学習相談ができるような仕組みを整えている。特別枠の入学制度で入学した生徒に話を聞くと、入学前は不安だったが、入学後してみると取り出し授業や放課後指導があり、担当の先生が丁寧に教えてくれるので不安が解消されたという。

もちろん特別枠について課題は残っている。特別枠の情報が教員に知れ渡っていないことに加えて、受検資格が来日３年以内という条件が難しい。通常、日常言語は２～３年と比較的速く習得されるが、教科学習に必要な学習言語能力の獲得には５～７年かかると言われている。受験資格を来日６年としている自治体もあるため検討は可能であろう。また、外国籍を持つ生徒という受検資格にも悩まされることがある。学習支援をする中で、複雑な事情を抱えながら日本国籍のまま来日した生徒に出会い、特別枠なしにどのように高校に進学できるのかと頭を悩ませている。

私の関わる学習支援教室の生徒たちは、特別枠制度で入学後、次なる目標すなわち大学受験、そして将来の夢に向けて勉学や部活に励んでいる。日本人の友達と席を並べることで、お互い学び合うことが可能にもなっている。高校の門を開くことさえできなかった生徒が、学校で小さな多文化共生社会を実現し、社会で役立つ人材になろうと必死で頑張る姿を見ると、特別枠が私たちの地域社会にもプラスの効果を生み出していると確信する。

M.I.（実行委員、兵庫県立大学環境人間学部）

奨学生からのメッセージ

N さん（12 期生）

「自分の好きな季節」

私の好きな季節は秋です。なぜかと言うと私の誕生日の季節であり、私が中学生の時に頑張った行事があったからです。皆さんは秋といえば何を思うでしょうか。芸術の秋、食欲の秋、読書の秋、などを思う人がたくさんいると思いますが、私は中学生時代の文化祭を思い出します。それは三年生の時でした。私は美術部に所属していて部長を務めていました。文化祭での看板製作でデザインが決まっておらず、どうしようかと悩んだ時、私はデザインを決めるグループの部員達と相談をしてデザインをどうするか話し合いました。看板のデザインは私のデザインに決まり、下書きの際、どの場所に何が描かれているか、色は何を塗るか、など、たくさん指示をしたことを今でも覚えています。あの時の私は部長らしく、振舞えたと思います。高校生になり、文化祭は六月にあり終わりましたが、精いっぱい頑張れたと思います。文化祭以外でも何事にも全力で、あきらめずに取り組みたいと思いました。そんな私の好きな季節である秋は文化祭の思い出以外でもいいと思う所がたくさんあり、涼しい時期でもあり、そして紅葉の時期でもあります。葉が紅く染まり、とても綺麗です。そんなとてもいいところがたくさんある季節である秋が私は好きです。それに、秋には、たくさんの思い出が色々あるので、私にとっては、好きな季節、という以外にも思い出深い季節、という印象でもあります。このことを改めて思うと、私は本当に秋が好きなんだな、と思いました。これからも私の好きな季節である秋を楽しみに待ち、訪れたら、とても嬉しく、楽しく過ごそうと思いました。また、これからの学校行事や、活動、出来事なども、楽しみ、そして、精一杯あきらめずに頑張りたいと思いました。そして、これからの秋、そして学校生活が楽しみだな、と思いました。これからの学校生活を楽しみ頑張りたいです。

S さん（12 期生）

「初めての高校生活」

私は、４月にＫ高校に入学しました。入学してからしばらくは、色々なことで緊張していました。友だちができるか、不安になりました。でも、すぐに仲の良い友だちができて、ホッとしました。新しいクラスの発表の時、仲の良い友だちと一緒のクラスになれるか不安でしたが、一緒のクラスになれて、すごく嬉しかったです。

高校に入ってからは、クラスの人がほとんど男子なので、なかなか話しにくかったです。しかし、毎日顔を合わせているうちに、一人の男子が、向こうから話しかけてくれました。少し恥ずかしかったけれど、すぐに打ち解けて話すことができました。それからは、クラスの他の男子とも話せるようになりました。男子の友だちも、いいものだと思います。

ある日、クラスの中で色々な委員会に出る人を決めなければなりませんでした。担任の先生が、やりたい委員会はありませんか?とたずねました。少し考えてから、私は手を挙げました。副委員長に立候補したのです。それで、私は副委員長をすることになりました。

１学期の中間テストは、中学の時より良かったです。高校から仕事もしているので、勉強と仕事の両立は、簡単ではありません。仕事に出てから、慣れないことが多くて、色々苦労をしてきました。でも、成績がよかったので、苦労をした甲斐がありました。

普段から、授業中にわからないところがあれば、家に帰って復習をしていました。授業中に先生が分かりやすい説明をしてくださったり、面白い話をしてくださったりする時は、とても頭に入りやすかったです。

６月に入ってからは、高校になって初めての体育大会がありました。私は、体育大会で借り物競走に出まし

た。借り物競走は初めてなので、何をするのか、全然わからなかったです。他のみんながやることを見ているうちに、段々、わかるようになりました。最後に友だちと一緒にゴールができてよかったです。とても楽しい体育大会でした。きっといい思い出になると思います。

小学３年の時、中国から日本に来てから、学校の勉強も、日本語の勉強も頑張りました。でも、まだまだダメです。6月から週に一度、日本語の教室に通い、日本語の勉強をやり直しています。仕事、学校の勉強、日本語の勉強、と３つをするのは大変ですが、これからも頑張って、続けていきたいと思います。

R さん（12 期生）

「日本に来てから一年間の変化」

月曜日の朝起きたら、いつも通りシャワーを浴びます。制服を着て、学校へ行こうとして、カレンダーを見て、ああもう夏休み中やな、忘れてた！自分で言いました。早すぎですね。もう一学期が終わりました。駅から家に帰るとき、この一学期はどんなことをしたかよく考えました。

一年前の私は、日本語がぜんぜんわからなかったのですが、日本の中学校に入りました。それは私にとってとても大変な一年間でした。日本語ができない、クラスの友達は英語ができる人も少ないです。その時はいつも一人で窓の隣の席で座っていました。外を見て、寂しかったです。8 月に、学校で三者面談がありました。どんな高校に行くか相談しました。その時、最後の結果は夜の高校にするか4年制の高校にするかどちらかを選択することになりました。その日、家に帰ったら自分でしっかり考えました。あきらめたが方がいいのか、自分の力はこのぐらいなのか、もっとよい成績はだせないか、どんな原因で成績がよくならないのか。いろいろな問題を考えました。二日目から、私は日本語を一生懸命に勉強しました。単語と文法を覚えました。毎日塾で勉強しました。勉強する範囲の内容が全部できるまで家に帰りませんでした。4 か月後には良い知らせがどんどん来ました。私立高校の入学試験は合格しました。英検も取れましたので、入学金は全額無料です。三週間後の公立高校の入学試験も合格しました。楽しかった！最後に公立の学校に行くことに決めました。

高校に入ったら、私の生活はどんどん楽しくなりました。今は日本語ができるので、クラスの中の交流は大丈夫になりました。中学校時代の僕は、毎日学校は何時までか、早く帰りたいと考えていました。でも今、私が毎日考えることは明日がいつくるのだろうかということです。高校では三分間スピーチもしました。自分の自信と勇気になりました。学校のバスケットボール部に入りました。毎週月水木曜日は 311 教室で通訳の先生と一緒の勉強の時間があります。その日は放課後 2 時間わからない内容は先生が教えてくれます。だから部活は 1 週間に 2 回行きます。行ける時間が少ないです。けれども練習の時は注意力をしっかり持って、集中しなければなりません。勉強の時一生懸命勉強し、遊びの時はよくリラックスし、両方ともできるようになりました。でも、高校の教科は中学校よりたくさんになりました。それは当たり前です。しかし、自分の得意な教科と苦手な教科はあります。数学と英語の成績は学年一番、二番になりました。でも古典と現代文の内容は全然わかりません。古典の活用表は難しいです。どんな時どんな活用形を使うのかを覚えることができません。そして、夏休み中に学校の古典補習に二週間行きました。たくさんわからないことを知りました。来学期の教科はもっと難しいです。でもあきらめません。Try my best。自分の記録を越えます！

日本に来てからいろんな経験を積んで手にいれた我慢強さを活かしていきます。自分の力を信じて、理想の人になれるよう頑張ります！

U さん（11 期生）

「好きな季節」

私には特に好きな季節があります。その季節は「冬」です。

なぜ好きなのかと言うと理由が二つあります。

まず一つ目は私の誕生日があり、家族が誕生日パーティを企画してくれるからです。

去年は私のいとこや友達を家に招いて他愛もない会話を楽しんだり、音楽を流してみんなでダンスやゲームをして盛り上がったり、毎年私が食べたいホールケーキを2つも用意してくれて盛大に祝ってくれました。その時間が私にとって一番幸せな時間だからです。

二つ目の理由はクリスマスがあるからです。母がキリスト教を信仰しているので、数ある行事の中でも特に力を入れているため毎年盛り上がります。

十二月に入ると、家族みんなでクリスマスツリーや部屋をライトと母が作った人形などで豪華に飾り付けをして、部屋全体をキラキラにします。

そして、クリスマス当日には、家族と「エンパナーダ」を作ります。作る際には担当を決めていて、両親は生地の上に具材をのせてそれを私と妹と二人で包みます。

それとは別に母がほうれん草とベーコンをタルトに盛りつけて焼いてくれます。私の大好きなステーキも用意してくれます。クリスマスもいとこや友達を招いて一緒にプレゼント交換をして、毎年とても楽しい行事となります。

私にはもう一つ好きな季節があります。その季節は「夏」です。

なぜなら大好きな友達の誕生日があるからです。大好きな友達の喜んだ顔を想像しながらサプライズを計画することが楽しいからです。それが成功した時の友達の嬉しそうな顔を見ていると、私まで嬉しくなり、やりがいを感じるからです。

どちらも生活しづらい季節ですが、その分楽しい行事があるため、私はこの二つの季節が大好きです。

A さん（11 期生）

「スポーツ選手」

私はフィリピンのボクサーであるマニー・パッキャオについて書きたいと思います。

私は物心がつく前から、お婆ちゃん、お爺ちゃんや周りの人と一緒にパッキャオの試合がある度、テレビで見ていました。

幼い頃はすごいとは思わずにただ見ていただけでしたが、気が付くとパッキャオのパンチの素速さに気付き、どんな相手でも怖がらずに戦っている姿を見て、目を引かれました。それだけではありません。パッキャオは小さい頃、貧困家庭で食に飢えていました。家族全員がまともな生活を送れないということがきっかけで１１ 歳の時にボクシングも始めました。その歳で家族への思いやりや責任感が感じられ、とてもかっこいい人だと思いました。今は家族のためだけではなく、稼いだお金は貧しい境遇に置かれた世界の子どもたちに寄付しています。パッキャオに興味を持ったのもこれが一つの理由です。

２０１５ 年 ５ 月 ２ 日にパッキャオとフロイド・メイウェザーの試合がラスベガスでありました。パッキャオが好きな人からすると、残念な結果になってしまいました。パッキャオの骨格はメイウェザーに比べると小さいし、細身のアジア人がここまで戦えたのは本当に誇りに思います。結果は残念でしたが、ワクワクさせられるような戦いでした。パッキャオはまたメイウェザーと再戦したいと言っており、私もぜひしてほしいです。もう一回戦いたいという度胸、リング内では険しい顔をしていますが、リングから出ると優しい笑顔になるのもみんなから好かれる理由だと思います。

パッキャオは世界王者で確かにすごいと思います。当たり前ですが、そんなパッキャオでも引退する日が来

ます。その日が来るまでは今みたいに頑張っていて、思いやりがあり、度胸があるパッキャオでいてほしいです。また同じ国の出身である私も応援していきたいです。

T さん（11 期生）

「国籍と言語～自分のアイデンティティについて～」

「アイデンティティ」という言葉はテレビなどのマスメディアで誰しも耳にする言葉だと思います。辞書で意味を引いてみると、自己が環境や時間の変化にかかわらず、連続する同一のものであると書いてありました。日本語では「自己同一性」と訳されていることが多いそうです。私は「自分らしさ」と訳しました。つまり、私たちが外国人であるということも自分らしさです。

周りにいる日本人の同級生にいじめられたことがあるといった話をよく聞きます。原因はどれも、日本人ではない、話す言葉が違うからといったものでした。幸いにも、私の周りの環境は外国人からといって差別されることはありませんでした。当時の私は幼いながらになぜ国籍も話す言葉も違うのに仲良くしてくれるのだろうと思い、友達に聞いたことがあります。「なに言ってんの。友達は友達でしょ。」とこの言葉で曇っていた心が一気に晴れました。

私は今、生徒会長をさせていただいています。生徒会長に就任する際に、96%を超える人が認証してくれました。数字を見るだけで多くの人が私自身を認めてくれているんだと嬉しく思いました。同級生からは「頑張れ！お前なら適任や。」と応援してくれました。人の前に出て話したり、行動したりするのは苦手ですが、私と同じ外国人に対して少しでも勇気を与えられるような存在でありたいと考えています。自分から行動するのは大変かもしれませんが、その先のことを考えれば簡単なことです。

最後に、金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」という詩もある意味アイデンティティだと思います。国籍も違えば、話す言葉、肌の色、目の色、文化など違って当たり前、それが 1 人の個性であると私は思います。

N さん（10 期生）

「外国人で得している感じること、損していると感じること」

僕は日常生活の中で、自分が外国人で得をしたな、損をしたかと考えてしまうことがよくあります。だから今回はこのテーマにしました。

僕が外国人で損得を感じたことは、たくさんありますが、その中でも特にこれだ、と強く思ったことは、人との関わりについてです。まず、こうして僕が奨学金を頂いて、後ろに続いていく学生たちのロールモデルとなり、学業に取り組めているのも、僕が外国人だったからの出来事で、その中で僕達を支えてくださるたくさんの人たちと関わることができました。他にも、奨学金だけでなく、僕の私生活にもたくさん支えてくれる人たちがいて、とても広い関わりを持つことができました。その中で話が上手くできなかったり、煩わしいと気が重くなることもあったり、価値観や感覚の違いなどから生まれる苦労があったりもしました。そういった面を見ても、僕はとても恵まれていて、とっても幸せ者なんだな、と感じます。僕の通っている高校に以前勤められていた校長先生が仰っていたことなのですが、「友人を、先生を、そしてあなたの周りにいて支えてくれるすべての人的財産を大事にしなさい。それはきっと、人生の宝になるから。」という言葉を話してくださいました。僕にピッタリなこの言葉のように、今まで関わった人たちとのつながりと、これからつくられていく人たちとの関わりを大事にしたいと思います。そして、今まで、様々な場面で支えてくれたたくさんの人達に恥ずかしくないように、これか

らも、人の関りを大事にしながら頑張っていきたいと思います。大変なこともたくさんあるだろうし、この大きく変わっていく変化の時代なのもあって、苦労をおかけすることもあるかもしれませんが、これからもどうかよろしくお願いいたします。

V さん（10 期生）

「2019 KOBE INTERNATIONAL CONFERENCE」

今年の七月十一日と十二日に、私が現在通っているＦ高等学校が拠点校に選出されている文部科学省のWWL（WIDE WORLD LEARNING）コンソーシアム構築支援事業の一環として、海外五つの国と地域の高校生計十名が参加し、グローバルな社会的研究課題を設定したうえで、その改善に向けて意見を交換する「KOBE INTERNATIONAL CONFERENCE」を開催しました。

F高校の姉妹校であるスウェーデンのF高校、オーストラリアの W 高校、アメリカの S 高校、台湾のT中学、そしてフィリピンの A 高校から生徒十名、教員五名の合計十五名が来日しました。F高校の国際科の三年生がおもに海外の生徒と交流し、教育、環境、健康、人権や持続可能性の五つの分野に分かれて、今世界で課題となっている社会問題について討議しました。教育の分野では障害のある児童生徒も普通の障害のない児童生徒と一緒に勉強できるような教育システムを探しました。環境分野ではまだよく知られていない電子機器廃棄問題、健康分野では高校生のメンタルヘルス、人権分野では悩ましいネットいじめ、そして持続可能性分野で最近流行っているファストファッションについて私たち高校生が地域レベルで取り組みができる解決策を議論し、提案しました。

私はずっと社会に何か貢献できる人になりたいと思っているのでF高校のグローバルリーダーを造るというSGH プログラムに心がひかれて、入学したのですが社会に何かが出来たという実感がありませんでした。授業で習った社会問題についてより多くの人々に知らせることができなくて、その問題についての自分の考えた対策も実現できそうにありませんでした。しかし、今回のカンファレンスで私は初めて世界の一人としてこの社会に意味があることをしているのだなと感じました。今までは自分が興味を持つ社会問題についてひたすら一人で研究したのでどうしても解決策に自分の価値観を入れてしまい、自分の対策がベストだと思い込んでしまいますが、今回のカンファレンスでF高校の生徒だけでなく、海外の生徒とも先生方とも意見を交換することができてたくさん勉強になりました。例えば自分がこの取り組みが良いと思ってもたくさんの人になぜその取り組みが必要か、本当に誰でもできるのか、その取り組みにかかってしまうお金の量などを聞かれて自分の考え不足だったところを気づかされました。逆に私の意見を受け入れて対策を考え直してくれるところもありました。

今回のインターナショナルカンファレンスで今まで勉強してきた自分を発揮することができ、また社会問題だけでなく、異国文化について新しいことをたくさん学べました。この機会を作ってくださった神戸市、そしてF高校に本当に感謝しています。私たち高校生が一人一人力を合わせて提案したことを社会に絶対に活かせると信じています。

K さん（10 期生）

「旅」

高 3 の夏になりました。卒業まで後半年、今は日々辛い受験生活を味わっています。家への帰り道は「来年はどんな大学生になっているだろう？」ということについてよく考えていました。志望校に合格しているかどう

かは別にして、学校生活以外はどんな過ごし方をしているでしょうか。

自分が理想としている過ごし方があります。大学の四年間で色々な地域に行って、一週間ぐらいはしばらくそこに滞在してみたいです。旅行というより、旅の方です。地元の人と同じ過ごし方で生活してみることを通じて経験を学ぶことができます。そして自分の生活に戻って、その記憶を頭の隅に入れ、再びそこを訪ねる時に、「何年か前はここはこんなだった」と同行の人に言うことも一つの楽しみです。

だからと言って、卒業旅行からこういう過ごし方をするのではなく、大学生にしかない長期休暇を使って，光客が多い時期と違う時期に行きます。なぜなら、人波の中にそこの特別な雰囲気が隠れてしまうかもしれないからです。

そしてもう一つ大切なことは計画を立てることです。ただ目の前にあることだけにとらわれるのではなく、一年間や大学生の間に行きたいところを全部リストアップし、そしてそこにあった歴史を調べる、行き先の歴史を知ってから風景を見ると、より深い意味が見えてくるかもしれません。歴史を知ってからは地域と地域の間を繋ぎます。より深い繋がりがあるところは一緒に見る、歴史書を見たりすることもいいです。

なぜ、私がこんな旅行をしたくなったか。それは去年夏のことでした。去年の夏休みは１ヶ月ぐらい中国に帰れました。友だちと一緒に旅行をしているうちに、大雨の日が何日も続いていました。海の周りが封鎖されていました。最悪と言いながら、友だちからホテルの周りを見て見ないかと誘われました。最悪と思いながら回ってみたら意外に面白いお店もありました。それからずっと色々な所を見たくなりました。